

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000268		
法人名	有限会社 栄寿会		
事業所名	有限会社 栄寿会 グループホームふるさと		
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1635番地		
自己評価作成日	平成25年9月16日	評価結果市町村受理日	平成26年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美しい自然の環境に恵まれて、施設は自宅で生活しているような雰囲気の中で、利用者は日々を生き生きとして過ごしている。基本理念をモットーに利用者の尊厳を守り、行き届いた介護に専念している。家族の訪問も絶えずあり、入居者、家族、施設が一体となり取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造作りの家庭的な温かみのあるホームである。理念である「目配り、気配り、心配り」は利用者だけでなく、家族や職員にも向けられており、代表はホームのサービス向上のため、職員研修受講費の助成を含め職員のスキルアップや福利厚生に配慮している。家族通信は、利用者の様子・健康以外にも、家族が知りたい内容に個別に対応しており、細かに連絡を取り合い、信頼関係を築いている。また現在ホームでは、寝たきりを出さないという事業所の方針も加えた支援を行っている。健康管理や口腔ケアの徹底、また日々のリハビリを兼ねた生活支援の結果から、ホーム内での車椅子を使用する利用者がいないことは事業所の特長である。利用者も、お互いに配慮し合いながら穏やかに過ごしている温かみのある家庭的なホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームふるさと  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員で共有し、毎朝のミーティング等において復唱し、実践への取り組みを確認している。理念は目の触れやすい場所に掲示している。	朝のミーティング時に「目配り、気配り、心配り」という理念を唱和している。職員は利用者が安心して家庭的な生活が送れるよう、理念を基に支援している。また職員の支援の姿勢が利用者伝わっており、利用者同士で見守り合うなど、楽しく共同生活を送ることに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事への積極的な参加取り組みを行うよう取り組んでいる。昨年今年と地元保育園児のお遊戯会運動会に見学に行き大変好評であった。	自治会に加入しており、地域の環境整備や祭りに協力している。地元保育園のお遊戯会見学や運動会に職員は利用者とともに参加している。また、社会福祉協議会にボランティア訪問の申込みを依頼し、地域住民との交流の機会を積極的に取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を図っていく上で認知症に対する理解を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、市担当者、入居者家族、地区老人会の方を交えて情報交換ができるように配慮している。又、外部評価結果や改善事項等報告しサービスの向上に努めている。	2ヶ月毎に規程のメンバーで開催している。状況や行事報告の他にテーマを決めて質疑応答の時間を設けている。今年度は年間通して自然災害や体調不良などの様々な緊急時対応について協議し、サービス向上に活かしている。ただし、議事録に話し合いの経緯や内容の詳細の記載がない。	運営推進会議で出された意見を事業所のサービス向上に活かすためにも議事録には議題だけではなく、話し合われた内容を詳細に記録することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に出席して頂き、実情を把握して頂き指導等受けながらサービスの向上に向けて協力関係を構築している。	事業所は市担当課に相談に出向いたり、電話などで日頃から連絡を取っている。利用者に関わる各課担当者との情報を共有するなど、協力関係を築いている。保健師やケアマネージャーとの情報交換も行っており、協力関係を築いている。職員は市主催の島内での研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の状況を常に観察し、徘徊のある方には見守りを重視し、拘束しない介護に日夜取り組んでいる。	職員は理念である「目配り、気配り、心配り」を念頭に身体拘束をしない見守り重視の支援を行っている。日中、玄関は開錠しており、ベッド柵等の使用もない。毎日のミーティングや臨時会議でヒヤリハットについて話し合ったり、研修会に参加するなど身体拘束をしない介護への理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中、スタッフ間で言葉かけ、ケアの方法等話し合い、虐待のない介護への取り組みを確認している。		

グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業制度を活用されている方が1名おられ、実際にに関わり、研修等積極的に参加するようにしている。スタッフとも情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去に関しては、契約時に重要事項を説明し了承を得た上で契約している。又、制度改正がある場合は再度説明し、同意を得ている。利用者家族との良好な関係が得られるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族からの電話、施設訪問を受けた時は入居者の現状等こと細かく説明し常に状況の把握に努め情報を共有して頂いている。	毎月、各利用者の家族へ向け、「家族への通信」と称するホームでの様子や状況を詳細に記載した便りを送っている。家族の訪問時には各居室で会話するなど職員は話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見箱や外部相談窓口設置の説明も行っている。遠方の家族は電話で意見や要望を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のスタッフミーティング、回覧等で意見等積極的に話し合い情報の共有取り組みに日々努めている。	朝のミーティングや職員会議で、代表は職員の意見を聞く機会を設けている。また日頃から何でも言える職場環境となるよう努めている。職員のシフト調整や外部研修参加等の希望は聞き取り、実現している。また職員の要望から忘年会を催すなど福利厚生にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは積極的にコミュニケーションを図り、なんでも話せる人間関係の構築に努めている。他施設を見分し福利厚生の改善に積極的に取り組み働きやすい職場改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議研修等積極的に出席できるよう勤務表等の作成に配慮している。資格取得を全員が取れるよう福利厚生面でも支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設間への相互訪問、研修等を積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けたら訪問調査を行う。又、施設訪問が可能な方は訪問して頂き、施設の雰囲気、理念等伝え、入居者、ご家族が不安を抱かないよう十分に説明し安心と信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族が安心して入居者を預けられるように十分な説明とコミュニケーションを大切に意見、要望を話しやすい雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けることができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「施設は1つの大きな家族」という意識を持ち、教えあったり、励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添いご家族の意向を聞きながら、入居者と良い関係が築けるように配慮している。面会、外出、外泊等で家族との交流が図れるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人、友人の面会時にはゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りにも心がけている。住み慣れた実家や思い出の場所等ドライブに出かけ、四季折々の自然探索等年間を通じて支援している。	本人・家族、また行政からの情報を基に利用者の生活歴を把握し、馴染みの関係継続に活かしている。家族や知人の訪問は自由で、ほぼ毎日訪問がある。知人に会いに出掛けたり、馴染みの場所への外出をドライブを兼ねて職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日をホールで入居者の殆どが過ごす毎日です。ボール遊びカルタ取り、折り紙等積極的に参加され、孤立することなく支えあえる人間関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所されてもその後の近況の把握に努め、家族、施設の担当者にあった時は様子を伺い、継続的なフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情から本人の意向、要望等を把握するように努めている。家族からも情報を聞くようにして意思決定を尊重している。	職員は、居室やリビングのソファ等で利用者に寄り添いながら、一人ひとりと会話している。利用者自ら思いを伝え切れない場合は職員が声を掛けたり、散歩など気分転換を図り、会話しやすい雰囲気を作っている。家族から情報を得ることもあり、得た情報は直ぐに職員間で共有し、支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や個々の生活歴を把握し、本人に合った介護支援に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の排泄の状況、血圧、脈拍、体温等健康状況を把握し、状況に応じたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や利用者が希望する日々の暮らしについて意見を聞き、職員で協議し、医療機関の情報をもとに介護計画書を作成。内容の確認とモニタリングを定期的に行っている。	長期1年短期3ヶ月の目標を立て、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。更新時には、サービス担当者会議をし、本人と家族の意見や主治医意見書を参考にしながら職員が話し合い、計画を作成している。家族の同意も得ている。日々の支援に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況を毎朝のミーティングで話し合い、個別の介護記録、業務記録等で食事や排泄、服薬状況等を把握し健康状況や心身の状況を共有しながら実践や介護計画の作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、入院退院時の付き添い、入院された利用者に対しては定期的な面会、洗濯物、着替え物等の届等家族に代行して支援している。		

グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心してより良い暮らしを確保するため、関係機関、他施設との交流を図っている。毎月防火避難訓練を実施し災害の予防に取り組んでいる。近隣の保育所行事に積極的に見物等参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に定期的を受診し服薬している。緊急時には24時間を問わず急患として受診し、家族との連携を図り対応している。病院受診に関しては職員が常に同行している。	かかりつけ医への毎月の定期受診には職員が同行しており、結果は記録し職員間で情報を共有するほか家族に電話で受診内容を報告している。入院時は対馬市のケアパスを作成し、医療機関に利用者の介護状況等を提供し、連携を取っている。また、毎月の家族への通信にも受診状況をわかりやすく記載し、郵送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換を行い、状態変化の場合は、相談し、受診の必要性の判断や助言を得られるよう積極的に取り組んでいく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケアパスを作成し、介護記録等情報を医療機関に提供している。入院中はスタッフ管理者が定期的に訪問し、病院、家族との連携を図り情報を共有して退院に向けた支援に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については医療機関、家族との連携を図り取り組んでいる。看取りは現状では対応できない。限界まで支援して病院に入院させる。家族にも説明しており理解を得ている。	看取りの指針を作成しており、利用契約時に家族へ説明を行い同意を得ている。事業所は医療行為を伴う看取りは行わないとしているが、家族の意向を聞き、支援できる限り家族と協力し、本人が慣れ親しんだ場所で過ごせるよう介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらゆる災害を想定し毎月定期的に避難訓練を実施している。消防署との連携を図り消火訓練避難訓練通報訓練等積極的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等風水害の恐れがある時は、2名体制で夜勤に取組み警戒にあたる。地域避難施設(地区公民館)等への避難も考慮し地域との連携を図る。職員間については、連絡網で連携を図る。消防署との定期的な訓練等取り組んでいる。	年2回消防署立会いで夜間の消防訓練を実施している。訓練には消防団の協力がある。台風等風水害の危険がある場合、夜勤者以外に所長も夜間常駐し、警戒に当たった事例があった。毎月火災に関する自主訓練を実施し記録しているが、訓練時の気づきや反省等の記録がない。また、非常時の持出備品の整備もこれからである。	毎月の自主訓練の際、参加者の感想や気づきを記録することで、日頃からの防災意識が高まると思われる。議事録作成に期待したい。利用者の命を守るためにも非常時に事業所が何を持ち出すか、持出備品の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性、尊厳に配慮し言葉使い、礼節ある介護に心がけている。電話、家族の施設訪問等があった時は、それぞれの居室で対応し常にプライバシーに配慮している。	職員は利用者との会話内容や話し方に注意を払っている。家族訪問や電話など、利用者のプライベートに関わるような場合は、居室で対応している。職員は失禁時は羞恥心に配慮し、統一した対応を行っている。事業所は個人情報の取り扱いについて常に話題にし、職員もその重要性を把握している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活において、会話の中で思いや希望を組取り1人ひとりが自分で意思決定できるような場面を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	楽しみや思い、希望等最優先しその日の心身の状況に合わせて生きがいの持てる毎日が過ごせるよう支援している。ボール遊び、裁縫、食材の皮むき、近隣の散歩等有意義な1日を過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の衣替え、本人の意向にそった衣服の購入、着替えの支援等身だしなみや、おしゃれにもこと細かく支援し、四季に合わせた配慮を心がけている。理美容院には本人の意向に合わせて定期的に利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好物や希望の料理を聞きながら四季折々の食材で献立を作成。行事等には献立を変えて対応。体調の良い方には、テーブル拭き、下膳、材料の下準備等職員が見守りながら手伝って頂く。食事前には嚥下体操を取り入れている。	管理者が栄養士の有資格者であり、利用者の嗜好や季節の食材を取り入れた献立を作っている。ホームの食事を取ることで苦手な食材を克服した利用者もいる。誕生会や季節行事には特別な献立を提供している。庭でバーベキューをしたり、全員で外出に出掛けたり、食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランス、主治医の処方に配慮して献立を作成。1人ひとりの食事摂取を記録している。嚥下機能の低下している利用者にはとろみをつけるなどの工夫でそれぞれに合わせた取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性から、毎食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ、声かけ、見守り介助を行っている。出来ない方は介助支援している。義歯の定期的な洗浄にも配慮している。		

グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。自尊心を傷つけないように配慮し、排便、排泄を記録し支援している。個々に合わせた声かけや誘導を心がけ気持ち良い排泄ができるよう体調管理に努めている。	職員は排泄チェック表を作成し、利用者の排泄状況を把握している。利用者毎にトイレ誘導時間や仕草に気を配ったトイレ介助を行っている。パッドの軽減に向けた検討も常時行っている。できる限りポータブルトイレは使用せず、トイレでの座位排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄記録等で確認しながら、食物繊維の摂取、食材の工夫、運動等取り入れて自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で血圧、体温、脈拍の測定を行い利用者の体調や希望を確認しながら職員2名体制で入浴支援をしている。体調のすぐれない方には清拭等で対処している。	週3回入浴支援を行っている。職員は2人体制を取り、全利用者が湯船に浸かれるよう支援している。利用者も着替えの準備をしたり、入浴中は職員との会話を楽しんでいる。現在、入浴拒否をする利用者はなく、職員は利用者の体調を考慮し、楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分等見極めながら自室での休息がとれるよう配慮している。利用者は殆ど毎日ホールで過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの処方内容を職員が把握管理し、朝、昼、夕、就寝前と薬を仕分けて主治医の指示どおりの服薬を支援している。服薬出来ない方は介助している。バイタルチェックを朝昼夕と行い健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が生きがいを持てるように、その日のリズムに合わせた取り組みに努めている。テレビ、カラオケ、ボール遊び、折り紙折等生活歴や得意なことで気分転換なるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、その日の体調に合わせて、散歩、ドライブ、買い物等支援している。個々の意向等にそって家族同伴の自宅への帰省も支援し配慮している。	利用者の体調や気候に配慮しながら、ホームの庭や周辺を日頃から散歩している。職員は利用者の希望に沿って買い物や郵便局に出掛けたり、衣類を取りに自宅に帰宅するなど、個別の外出支援に努めている。家族と一緒に外食などに出掛ける利用者もいる。地域の行事や花見などみんなで外出を楽しむ機会も作っている。	



グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院代、おむつ、理美容、衣服代等は家族から預かり必要に応じて支払し管理している。少額のこずかいは個々で所持し、自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシー保護の為電話がかかってきた時は子機で会話し、自室で対応して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設回りは自然豊かな環境に恵まれ、個室は和室と洋室に分け、内装も落ち着いた色合いに仕上げています。床はバリアフリーで使い勝手の良い生活空間になっている。四季や行事等に合わせた装飾品で対応している。換気にも配慮している。	家庭的で季節感のあるリビングは、日当たりが良く利用者が心地よく過ごす環境である。調理の匂いや程よい大きさの生活音は、利用者の五感にやさしい。年2回のワックスがけをし、毎朝職員は床だけではなく、細部まで掃除をし、心地よい共有空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大広間のソファで、気の合った者同士が思い思いに過ごせるよう、席の配置を工夫している。一日をのんびり、楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室と入居者の意向に沿えるよう部屋選びを工夫している。押入れ、物入れ等には布団衣類等が整理されている。四季に合わせて入れ替えし日々整理整頓に心がけている。	利用者の使い慣れた物や、居心地良く暮らすために必要な物は制限なく持ち込むことができる。ベッドや調度類の配置は利用者毎に検討している。職員は季節毎に整理整頓し、毎朝掃除と換気を行い、快適に過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部や外部にも安全な環境造りに配慮して、玄関前はスロープで雨の日の車乗り入れも濡れないで対応できる。外部はブロック塀で安全性を高めている。居室には不要な物を置かないよう配慮している。		